

長期戦略:テーマ 「総合学園」の枠組み再構築

提出日 2021年 8月24日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	柳屋常任理事(法人) (総務部)	実施計画の 担当部署	総務部・各学校
-----------------------	---------------------	---------------	---------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
4-(1)-② 総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透	2022年度	2024年度	必要なし	不要
<p>内容</p> <p>関西学院が9つの学校で構成される総合学園としての強みを最大限に発揮するためには、学院としての教育の理念・目的が統一されていることが不可欠である。各学校において、改めて学院のミッション(ミッションステートメント)とスクールモットー”Mastery for Service”を再確認し、「キリスト教主義に基づく全人教育」を最上位の理念・目的として共有する。そのうえで、各学校は学院の一員としてのアイデンティティを持ちながら、独自の教育方針や特色を打ち出す。</p> <p>具体的施策としては、以上のことが一目でわかる広義の「総合学園」マップを作成し、各校で生徒募集やアイデンティティの浸透に活用する。このことにより、学院が育てる人材像を共有し、学生・生徒・児童等とその保護者、教職員、各学校全ての卒業生の誇りと帰属意識につなげるとともに、外部への発信により学院のブランド力向上を図る。</p>				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	新たな具体的施策実施状況	「総合学園」マップを活用した施策が実施されたかどうか		
指標2	総合学園・関西学院の認知度・理解度(学生、児童・生徒・学生の保護者、卒業生)	アンケート設問内容は、要検討。スクールモットーや各学校の教育方針の理解度が測れるよう、学校評価のキリスト教主義教育に関連した設問を主に利用する		
指標3				

目標1<指標1>新たな具体的施策実施状況

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
目標	—	実施する	実施する	実施する		
実績						

目標2<指標2>総合学園・関西学院の認知度・理解度(学生、児童・生徒・学生の保護者、卒業生)

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
目標	学生:60% 児童・生徒・学生の保護者:40% 卒業生:60% (仮設定。設問内容によって変動する)	学生:65% 児童・生徒・学生の保護者:50% 卒業生:70% (仮設定。設問内容によって変動する)	学生:70% 児童・生徒・学生の保護者:55% 卒業生:75% (仮設定。設問内容によって変動する)	学生:70% 児童・生徒・学生の保護者:60% 卒業生:80% (仮設定。設問内容によって変動する)		
実績						

目標3<指標3>

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
目標						
実績						

2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
「総合学園」マップの作成	策定段階				「総合学園」マップの 検討内容確定	「総合学園」マップの 作製・活用
	2022 年 3 月末 段階	—	—	—	—	—
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階	見直し	見直し後継続	継続	見直し	
	2022 年 3 月末 段階	—				
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	策定段階					
	2022 年 3 月末 段階					
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階					
	2022 年 3 月末 段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2022年度 承認	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2022年度 承認	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	左記以降
非公開							

4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	—
2020 年度	—
2021 年度	
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	—
2020 年度	実施計画 4-(2)-①「キリスト教主義に基づく関西学院アイデンティティの浸透を推進するための主管部署の整理・再検討およびその内容の開発」におけるアイデンティティ浸透協議会設置後の具体的取組みを踏まえ、「総合学園」マップの作成等を通じて「見える化」とアイデンティティの浸透を図っていく。
2021 年度	アイデンティティ浸透協議会を発足したがまだ実施していないため、実施し、今後の取り組みについて検討する。
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018年度	—
2019年度	—
2020年度	—
2021年度	—
2022年度	
2023年度	

7. Total Review の結果

【フェーズⅠ(2019～2021)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ・「総合学園マップ」の在り方や活用方策を検討することが喫緊の課題である。 ・学校評価におけるアンケート結果を踏まえた分析を行う必要がある。 ・短大においては、アンケートに Mastery for Service の浸透度・実践度が含まれていないため、今後実施する必要がある。 	継続 ・ 廃止	・同左

【フェーズⅡ(2022～2024)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	